

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H03658

研究課題名（和文）CEFR準拠の外国語教育資源整備用ワークベンチの開発と評価

研究課題名（英文）Development and Evaluation of Multilingual Resources Workbench for CEFR-based Foreign Language Teaching

研究代表者

投野 由紀夫（Tono, Yukio）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：10211393

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 33,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、「ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)」準拠で日本の英語教育のために作られた CEFR-J を用いて、CEFR基盤による多言語教育システムとその構築手法を研究したものです。主たる成果物として、CEFR-Jレベル別CAN-DOリスト一式に対応付けした語彙・表現・構文等の多言語教育用言語資源を試作し、その際に利用したツール類と教育用多言語コーパスを作成しました。これによりCEFR準拠の外国語シラバス構築、教材研究、テスト開発、e-learning コンテンツ作成などに役立つ基礎資料群を整備することができ、どのような外国語でも比較的均質な外国語教育システムを作り出すことができます。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在、世界中でいろいろな言語が学ばれていますが、外国語教育のシステムは国・地域ごとにバラバラで品質はよくありません。ヨーロッパ言語共通参照枠を使用した一貫した教育システムは、ヨーロッパの言語以外では応用が難しいのが現状でした。それをできるだけいろいろな言語に普及させるために必要なCan Doリスト一式とそれに紐づく語彙・表現などのデータベースを整備して、言語教育用資料の作成方法を提唱したものです。これにより、多くの外国語教育システムが品質管理をよりよくできるようになることが期待されます。

研究成果の概要（英文）：This research investigated a CEFR-based multilingual education system and its construction methods using the CEFR-J, which is based on the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) and designed for English language education in Japan. The main deliverables were a prototype of multilingual educational language resources such as vocabulary, expressions and constructions corresponding to a set of CAN-DO lists by CEFR-J levels, tools used in this process and a multilingual corpus for educational use. This has enabled the development of a set of basic materials useful for constructing CEFR-compliant foreign language syllabuses, researching teaching materials, developing tests, creating e-learning content, etc., and creating a relatively homogeneous foreign language teaching system for any foreign language.

研究分野：コーパス言語学

キーワード：CEFR 外国語教育 コーパス言語学 ヨーロッパ言語共通参照枠 言語資源 コーパス 語彙表 シラバス

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

- (1) 言語教育の学習・教授・評価の汎用枠組として 2001 年に欧州評議会で制定された「ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)」が世界的に影響力を持ちつつあった。さらに日本では CEFR 準拠の英語教育用枠組 CEFR-J (投野, 2013) が 10 年来の研究を経て、英語教育現場の各所で用いられるようになってきた。
- (2) 研究代表者の所属する東京外国語大学は外国語教育・研究に特化した研究機関として、28 言語の専攻語があり、その分布も欧州、アジア、オセアニアなど多岐にわたる。そこでの外国語教育の統一的改善と新しい手法の開発は喫緊の課題であった。

2. 研究の目的

- (1) 本研究では CEFR-J を多言語学習用に機能拡張し、CEFR 基盤による教育用言語資源構築のための「CEFR-J 外国語教育資源整備用ワークベンチ」を開発するための基礎研究である。
- (2) 東京外国語大学の主要外国語 25 言語を対象に、CEFR-J レベル別 Can Do リスト(言葉を使って何ができるかを明示した目標文)一式とそれに対応付けした語彙・表現フレーズ・構文等の多言語教育用言語資源を作成する資料群と多言語教育用コーパスを構築する。
- (3) このワークベンチは、これを用いることで、CEFR 準拠の外国語シラバス構築、教材研究、テスト開発、e-learning コンテンツ作成などの基礎資料を構築することができ、双方向学習の特性を活かし当該言語の母語話者の日本語学習にも工夫次第で適用可能となる。本研究ではその構築手法の開発、多言語による具体的実装とその評価を目的とする。

3. 研究の方法

- (1) Can Do リストと語彙・フレーズ・構文の一体的整備

CEFR は 6 つの学習レベル(初級: A1/A2, 中級: B1/B2, 上級: C1/C2)と 5 つの技能(聞くこと、読むこと、話すこと<やりとり>、話すこと<発表>、書くこと)ごとに「言葉を使って何ができるか」を Can Do リストの形式で提供する(最新の改訂版 Companion Volume では、レベルと技能の分け方が少しオリジナル版と変更になっている)。これを個別言語に適用するためには、上記の枠組の各レベルと技能ごとの Can Do と対応する具体的な言語材料(語彙・フレーズ・構文)を選定する必要がある(図 1)。このような CEFR の個別言語用の言語資料を選定する作業を欧州評議会外国語政策部門では「参照レベル記述(Reference Level Description: 以下 RLD)」と呼んでいる。

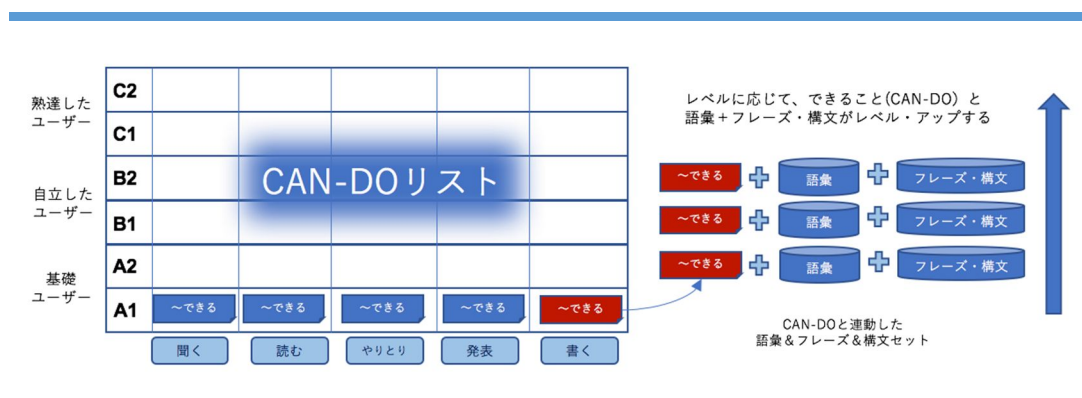


図 1: CEFR レベルと Can Do, 言語材料

- (2) 教育用言語資源構築方法の検証

CEFR-J で構築してきた英語教育用資源(レベル&技能別 Can Do リスト + 語彙・フレーズ・構文)を別の外国語でも利用できるように教育用言語資源構築手法を検証し、それを多言語適用に汎用化した「ワークベンチ(作業環境)」の提案を目指した。これによって、英語からの機械翻訳による半自動変換および個別の言語ごとの補完作業をカスタマイズすることで、対象言語の CEFR-J 教育用言語材料資源を作成するための、効率的かつ汎用性の高い構築環境が作れることを示す。さらに機械翻訳などの精度が低く資源の乏しい言語に対する構築手法として多言語コーパスを用意し、それによる補完方法とその効果検証を行った(図 2):

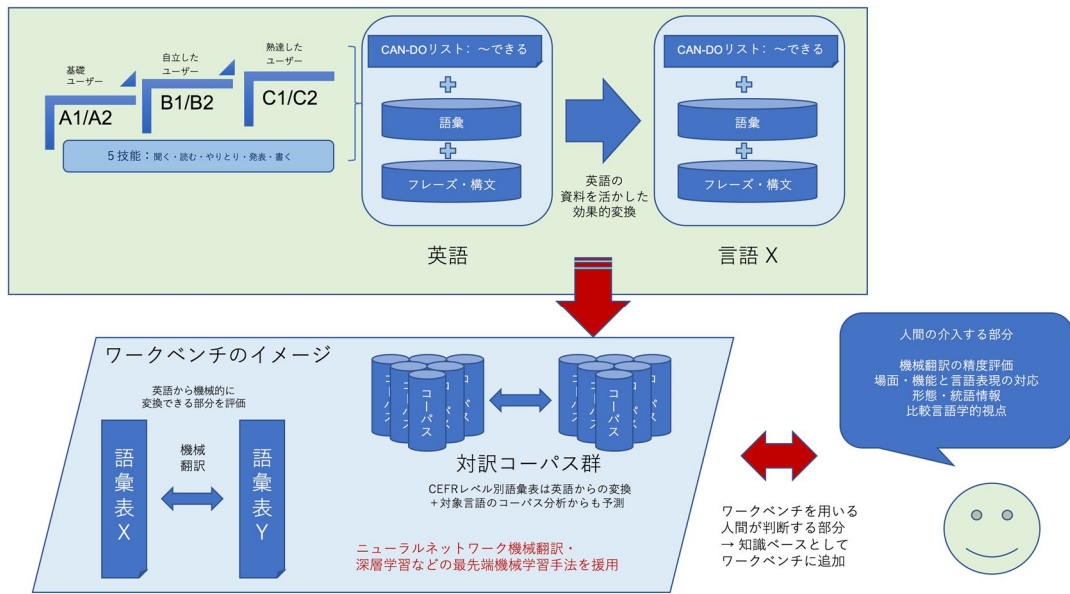


図 2：英語 CEFR-J RLD 資源を用いた「言語教育資源開発用ワークショップ」概要

#### 4. 研究成果

- (1) 2018～2019 年度は、CEFR-J 準拠語彙表として英語に関して既に公開されている CEFR-J Wordlist Version 1.3 (東京外国語大学投野研究室作成) を元に 27 言語に機械翻訳された語彙表翻訳結果の評価を中心に、27 の地域言語専攻担当教員と連携をとりながら、(i) 機械翻訳精度、(ii) 精度の高い部分と低い部分の特定、(iii) 英語と対象言語の比較による原因特定、(iv) 原因を補正する方法の考案を行った。表 1 はこれらの言語のうち、英語からの機械翻訳の語彙リストでどの程度、各言語コーパス上位 3000 語をカバーするかを検証した結果である。その結果、(a) 1 対多対応の単語、(b) 多義語、(c) 形態素単位の問題、(d) 文化的差違などの影響、(e) 機能語など文法要素の補充方法、などに関して評価チームで議論を行い、機械翻訳と人間の知識による人手での作業をどのように組み合わせるのがよいか、言語学の専門的な知見を交えて分析結果を精査した。

表 1：各言語上位 3,000 語の CEFR-J Wordlist の機械翻訳によるカバー率

Range of coverage out of 3,000	Languages
2,001-3,000	French (2,007)
1,501-2,000	Spanish (1,903); Italian (1,896); Portuguese (1,893) German (1,725); Indonesian (1,722); Russian (1,642); Czech (1,682); Polish (1,609); Malay (1,525)
1,001-1,500	Vietnamese (1,465); Chinese (1,432); Thai (1,430); Hindi (1,367); Persian (1,326); Turkish (1,199); Urdu (1,166); Mongolian (1,164); Japanese (1,140)
501-1,000	Korean (998); Bengali (992); Tagalog (934); Arabic (801)

表 1 を見ると、単純な機械翻訳による英語の語彙リストからの変換でフランス語コーパスの上位 3000 語中、2007 語がカバーされており、かなり効率的に重要語を選定できることがわかる。同様に、スペイン語 (1,903 語)、イタリア語 (1,896 語)、ポルトガル語 (1,893 語) などでは比較的効率的な語彙表変換が可能である。一方、カバー率の低い言語としては、韓国語 (998 語)、ベンガル語 (992 語)、タガログ語 (934 語) などが 1000 語以下のグループに入り、最低はアラビア語の 801 語であった。このような英語からの変換が望ましい言語とそうでない言語の特定なども踏まえて、多言語コーパスの必要性が増し、2020 年度にかけて、低資源の言語に対する機械翻訳データを補完するための多言語コーパス構築のニーズが顕在化していった。

(2) 2020 年度はコロナの感染拡大の影響で研究会実施が制限を受け、ワークショップの全体設計のうち、語彙表の多言語化の方策に関する 2018-19 年度の討議のまとめと、機械翻訳の補正を行う際に参照されるべき各言語の学習用教材のコーパス作成に注力した。前者については、科研分担者の担当する、フランス語、ポルトガル語、タイ語、フィリピン語、ドイツ語、中国語などを中心に、(i) 機械翻訳精度、(ii) 精度の高い部分と低い部分の特定、(iii) 翻訳精度が落ちる部分の原因特定、(iv) 補正方法、などに関して分類整理した。多言語コーパス構築に関しては 90 言語 400 以上のコーパスをすでに内蔵する商用 web コーパス検索システム Sketch Engine を用いるほか、モンゴル語、ラオス語などの資源の乏しい言語に関しては、小学校の使用教科書の全教科、外国語学習用教材のコーパス化を実施、さらに独自に web 巡回によるテキスト収集を実施した。本学の言語文化学部で専攻できる 28 言語に関して、独自の CEFR-J x 28 コーパスを各言語 1000 万語規模で構築し、学内利用に供した。

Language	CEFR Level	Word Count
Arabic	CEFR-Jx28-Arabic	11,926,229
Bengali	CEFR-Jx28-Bengali	14,575,272
Burmese	CEFR-Jx28-Burmese	4,889,717
Chinese Simplified	CEFR-Jx28-Chinese Simplified	14,874,973
Czech	CEFR-Jx28-Czech	11,490,816
French	CEFR-Jx28-French	12,974,025
German	CEFR-Jx28-German	11,191,538
Hindi	CEFR-Jx28-Hindi	7,172,313
Indonesian	CEFR-Jx28-Indonesian	10,259,156
Italian	CEFR-Jx28-Italian	15,355,891
Khmer	CEFR-Jx28-Khmer	4,977,620
Korean	CEFR-Jx28-Korean	8,668,218
Lao	CEFR-Jx28-Lao	4,912,839
Malay	CEFR-Jx28-Malay	12,965,040
Mongolian	CEFR-Jx28-Mongolian	13,810,874
Persian	CEFR-Jx28-Persian	8,218,727
Polish	CEFR-Jx28-Polish	12,616,936
Portuguese	CEFR-Jx28-Portuguese (Portugual)	12,117,204
Portuguese	CEFR-Jx28-Portuguese Brazilian	4,676,330
Russian	CEFR-Jx28-Russian	14,296,495
Spanish	CEFR-Jx28-Spanish	14,499,779
Tagalog	CEFR-Jx28-Tagalog	1,398,294
Thai	CEFR-Jx28-Thai	13,043,209
Turkish	CEFR-Jx28-Turkish	10,540,434
Urdu	CEFR-Jx28-Urdu	11,590,399
Uzbek	CEFR-Jx28-Uzbek	12,991,930
Vietnamese	CEFR-Jx28-Vietnamese	12,475,404

図 3 多言語コーパス一覧

(3) 2021 年度はコロナで遅れてしまった研究計画のうち、28 言語の語彙表・フレーズ表を可能な言語で A2 レベルまで完成し、紹介する web サイトを構築し、CEFR-J x 28 サイトにリンクする形で公開した。さらにこの年度からワークショップの利用の具体例として、各言語の Can Do ベースのパフォーマンステスト作成を開始し、それらに科研で構築した資料類を活用してもらう機会を持った。これらの研究成果は、コロナで報告が遅延したが、次期の科研に引き継がれ現在 Can Do テストの 28 言語における展開、汎用シラバスの構築によるオープンアカデミーへの運用開始、語彙表・フレーズ表の世界的な CEFR 対応の流れを受けた国際利用へと新たな展開が始まっている。

Language	CEFR-J x 28 語彙表 (A1, A2)	CEFR-J x 28 CAN-DO 別 フレーズ・リスト (A1.1)
英語	A1 A2	A1.1
ドイツ語	A1 A2	A1.1
ポーランド語	A1 A2	A1.1
チェコ語	A1 A2	A1.1
フランス語	A1 A2	
イタリア語	A1 A2	A1.1
スペイン語	A1 A2	
ポルトガル語	A1 A2	A1.1
ロシア語	A1 A2	A1.1
モンゴル語		A1.1
日本語	A1 A2	A1.1

図 4 語彙表・フレーズ表 (web サイト)

( [https://www.tufs.ac.jp/collaboration/intlaffairs/sgu/cefr-j\\_28.html#d](https://www.tufs.ac.jp/collaboration/intlaffairs/sgu/cefr-j_28.html#d) )

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 根岸 雅史	4. 巻 第51号
2. 論文標題 技術革新の歴史から見た英語教育の将来	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 令和2年度英語教育（熊本県中学校英語教育研究会会誌）	6. 最初と最後の頁 99-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kosit Tiptiempong	4. 巻 1
2. 論文標題 “ The CEFR-Based Standardization of Basis Thai Vocabulary for the Development of Teaching Materials of A1 and A2 Foreign Learners ”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Proceedings of Joint National Academic and Cultural Conference on THAI IN THE MODERN WORLD 2020	6. 最初と最後の頁 591-604
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yukio Tono	4. 巻 1
2. 論文標題 Coming Full Circle --- From CEFR to CEFR-J and back	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CEFR Journal	6. 最初と最後の頁 5-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三宅登之	4. 巻 第19巻
2. 論文標題 中国語多義語の分析と中国語教育への応用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本認知言語学会論文集	6. 最初と最後の頁 481-494
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishii, Y. & Tono, Y.	4. 巻 -
2. 論文標題 Investigating Japanese EFL learners' overuse/underuse of English grammar categories and their relevance to CEFR levels	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference, (Edited by Y. Tono and H. Isahara).	6. 最初と最後の頁 160-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tono, Y.	4. 巻 -
2. 論文標題 Developing multilingual language learning resources using the CEFR-J	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference, (Edited by Y. Tono and H. Isahara).	6. 最初と最後の頁 445-452
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 投野由紀夫	4. 巻 -
2. 論文標題 CAN-DOを日本の英語教育にどう活かすか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 平成29年度私立学校特別研修会『外国語(英語)教育改革特別部会講演・実践事例集』	6. 最初と最後の頁 69-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uchida, S. and M. Negishi	4. 巻 -
2. 論文標題 Assigning CEFR-J levels to English texts based on textual features.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proceedings of the 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (APCLC 2018)	6. 最初と最後の頁 463-467
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計70件（うち招待講演 17件 / うち国際学会 29件）

1. 発表者名 Wei-Tung WANG & Yukio Tono
2. 発表標題 Performance Evaluation of Automated CEFR Level Classification Tools.
3. 学会等名 JAECS2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masashi Negishi
2. 発表標題 What 's done and what 's not done?? The use of the CEFR in Japan
3. 学会等名 JALT Symposium & Workshop The praxis of teaching, learning, and assessment with CEFR and CLIL (Online)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masashi Negishi
2. 発表標題 Outline of the CEFR-J test task development
3. 学会等名 CEFR-J 2020シンポジウムwebinar (オンライン)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naonori Nagaya
2. 発表標題 Teaching the Filipino Language in Japan
3. 学会等名 INTERSECTIONS: International Conference on the Shared Histories and Cultural Heritage of Japan and the Philippines, (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kosit Tiptiempong
2. 発表標題 “ The CEFR-Based Standardization of Basis Thai Vocabulary for the Development of Teaching Materials of A1 and A2 Foreign Learners ”
3. 学会等名 THAI IN THE MODERN WORLD 2020 ( Joint National Academic and Cultural Conference ) ( 国際学会 )
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Naho Kawamoto & Yukio Tono
2. 発表標題 Predicting CEFR Levels of Illustrative examples: a corpus approach
3. 学会等名 CL2019 ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukio Tono
2. 発表標題 Developing the L2 Index of Grammar Development & Use: Variability issues revisited
3. 学会等名 UK-Japan Conference at Kobe University ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 投野由紀夫
2. 発表標題 コーパス言語学とCEFR研究
3. 学会等名 北海道英語教育学会20周年記念大会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 Yukio Tono
2. 発表標題 The CEFR-J Project: Contextualising the CEFR in ELT in Japan
3. 学会等名 New Directions English Language Assessment Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三宅登之
2. 発表標題 HSKの「字」本位の課題とCEFRとのリンク付けについて HSK制作部署訪問調査報告
3. 学会等名 CEFR-J x 28project科研費基盤A会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 パルマヒル・フロリンダ・アンパロ
2. 発表標題 CEFR-J リーディングとライティングのテスト・タスクのフィリピン語への可能性について
3. 学会等名 基盤(A)CEFR-J x 28 科研費会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yujia ZHOU, Jamie DUNLEA, Masashi NEGISHI , Barry O' SULLIVAN, Asako YOSHITOMI
2. 発表標題 Gathering a Posteriori Validity Evidence of a Computer-based Speaking Test for Japanese University Admission.
3. 学会等名 日本語テスト学会(JLTA)第22回(2019年度)全国研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 周育佳, 根岸雅史, 吉富朝子
2. 発表標題 High School Students' Perceptions of a Computer-based Speaking Test for Japanese university admission.
3. 学会等名 第2回JAAL-in-JACET学術交流集会(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoru Uchida & Masashi Negishi
2. 発表標題 Assigning CEFR and CEFR-J levels to Lexile measures: A corpus-based approach.
3. 学会等名 New Directions English Language Assessment Conference(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤縄康弘
2. 発表標題 ドイツ語の語彙と文法: 学習基礎語彙の独英対照から見えること
3. 学会等名 日本独文学会中国四国支部研究発表会(2019年11月9日 高知大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋廣尚恵
2. 発表標題 「CEFR - J リーディングとライティングのテスト、タスクのフランス語への適用」
3. 学会等名 科学研究費 基盤研究(A)「CEFR準拠の外国語教育資源整備用ワークベンチの開発と評価」(代表者: 投野由紀夫)10月23日公開会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kosit Tiptiempong
2. 発表標題 "An Analysis of the Contents and CEFR Connectivity in the Beginners' Thai Conversation Textbooks for the Japanese Learners of Thai"
3. 学会等名 National Academic Conference on the Role of Thai Language and Culture in the Global Community, Jointly Organized by Thai Five Universities and INALCO (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 黒澤 直俊
2. 発表標題 ポルトガル語能力検定試験についてーポルトガル版を中心に
3. 学会等名 科研費A「CEFR準拠の外国語教育支援資源整備用ワークベンチの開発と評価」公開会議(2019年12月16日 東京外国語大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤晴子
2. 発表標題 CEFR-Jリーディングとライティングのテスト・タスクの中国語への翻訳可能性とその際の問題点について 語彙表翻訳についても
3. 学会等名 科学研究費 基盤研究(A)「CEFR準拠の外国語教育資源整備用ワークベンチの開発と評価」(代表者: 投野由紀夫)公開会議
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tono, Y.
2. 発表標題 CEFR-based grading and sequencing of phrasal verbs and its implications for pedagogical lexicography.
3. 学会等名 Asian Association for Lexicography, Krabi (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tono, Y.
2. 発表標題 CEFR-J x 27: Developing corpus- and CEFR-based pedagogical resources and e-learning systems for 27 languages.
3. 学会等名 Teaching and Language Corpora, Cambridge (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tono, Y.
2. 発表標題 L2 learner profiling research and its application for multilingual pedagogical resource development
3. 学会等名 International Conference on Asian Language Processing, Indonesia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tono, Y.
2. 発表標題 The Development of the CEFR-J and its Applications in Language Assessment
3. 学会等名 Assessment of Second/Foreign Language Proficiency 2018 Fall International Conference, 8 November, 2018, Seoul National University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tono, Y.
2. 発表標題 Corpus approaches to L2 learner profiling research
3. 学会等名 English Teacher's Association (ETA)-ROC, Taipei (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masashi Negishi, Yoji Kudo, Yasuko Okabe, Yuko Kashimada, Mika Hama, Yuko Umakoshi
2. 発表標題 Linking the Global Test of English Communication (GTEC) to CEFR Levels.
3. 学会等名 LTRC 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 S.Uchida and M. Negishi
2. 発表標題 Assigning CEFR-J levels to English texts based on textual features.
3. 学会等名 4th Asia Pacific Corpus Linguistics Conference (APCLC 2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒澤直俊
2. 発表標題 ポルトガル語におけるCEFRの適用：機能シラバスから文法シラバスへ
3. 学会等名 外国語教育学会、東京外国語大学（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黒澤直俊
2. 発表標題 ポルトガル語の基礎語彙について
3. 学会等名 CEFR-Jx28プロジェクト科研費基盤A(投野由紀夫教授代表)公開研究会、東京外国語大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三宅登之
2. 発表標題 中国語多義語の分析と中国語教育への応用
3. 学会等名 日本認知言語学会第19回全国大会シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三宅登之
2. 発表標題 中国語語彙表の英語語彙表とのズレについて
3. 学会等名 CEFR-J × 28project 科研費基盤A第4回公開会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤晴子
2. 発表標題 中国語の主な語彙表・学習スタンダードとCEFR
3. 学会等名 基盤研究(A)「CEFR準拠の外国語教育資源整備用ワークベンチの開発と評価」(代表者: 投野由紀夫) 月例研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤縄康弘
2. 発表標題 CEFR-J ベースの言語教育資源とドイツ語学習基礎語彙
3. 学会等名 CEFR-J × 28project 科研費基盤A第7回公開会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長屋 尚典 & フロリンダ・バルマヒル
2. 発表標題 フィリピン語/タガログ語とCEFR: 言語社会における現状と課題
3. 学会等名 「CEFR準拠の外国語教育資源整備用ワークベンチの開発と評価」科研費研究会, 東京外国語大学, 2018年10月31日.
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋廣尚恵
2. 発表標題 フランス語の語彙教育のコンテンツと方法論について
3. 学会等名 科研費A (18H03658) 投野由紀夫代表「CEFR準拠の外国語教育支援資源整備用ワークベンチの開発と評価」 第2回公開会議
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hisae Akihiro
2. 発表標題 Discourse function of apres in French informal conversation
3. 学会等名 The 4th Asia Pacific Corpus Linguistic Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 バルマヒル・フロリンダ & 長屋尚典
2. 発表標題 「フィリピン語/タガログ語とCEFR: 多言語社会における現状と課題」
3. 学会等名 CEFR-J x 27project 科研費基盤A第3回公開会議
4. 発表年 2018年

## 〔図書〕 計9件

1. 著者名 投野由紀夫・根岸雅史	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 264
3. 書名 教材・テスト作成のための CEFR-J リソースブック	

1. 著者名 Tono, Y.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Crane Publishing Co. Ltd.	5. 総ページ数 17
3. 書名 "Corpus approaches to L2 learner profiling research." (分担執筆) In Leung, Y-N., Katchen, J., Hwang S., & Chen, Y. (eds.) Reconceptualizing English Language Teaching and Learning in the 21st Century: A Special Monograph in Memory of Professor Kai-Chong Cheung, pp. 392-409.	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

CEFR-J Resource: http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/corpuskun/wiki/index.php?CEFR-J%20RLD CEFR-J x 28 プロジェクト https://www.tufs.ac.jp/collaboration/intlaffairs/sgu/cefr-j_28.html
--

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	長屋 尚典  (Nagaya Naonori)  (20625727)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授   (12601)	



## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三宅 登之  (Miyake Takayuki)  (40259213)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授    (12603)	
研究分担者	パルマヒル フロリンダ  (PALMA GIL Florinda Amparo Adarayan)  (40813176)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・特任講師    (12603)	
研究分担者	根岸 雅史  (Negishi Masashi)  (50189362)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授    (12603)	
研究分担者	藤縄 康弘  (Fujinawa Yasuhiro)  (60253291)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授    (12603)	
研究分担者	秋廣 尚恵  (Akihiro Hisae)  (60724862)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授    (12603)	
研究分担者	ティプティエンポン コシット  (TIPTIEMPONG Kosit)  (70759208)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授    (12603)	
研究分担者	黒沢 直俊  (Kurosawa Naotoshi)  (80195586)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・名誉教授    (12603)	
研究分担者	加藤 晴子  (Kato Haruko)  (90275818)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授    (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------